

資料2. 2/20 図上訓練

2-1. 配布資料

- ・ 図上訓練進行資料

<p style="text-align: center;">帰宅困難者対策図上訓練</p> <p>はじめに 自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ グループごとに自己紹介をお願いします。 ■ ポストイットをお回しますので、 <ul style="list-style-type: none"> ①会社名 ②お名前 ③通勤の際の最寄駅 を書いてください。 ■ 書いた方から順番に、机の上の地図の会社の位置にポストイットを貼って、記入内容を読み上げながら、順に自己紹介してください。 <p style="text-align: right;">1</p>	<p style="text-align: center;">帰宅困難者対策図上訓練 (大阪駅周辺地区)</p> <p>STEP 0 発災直後</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現在14:30です。ここで大地震発生と仮定します。 ■ みなさんは、この訓練では会社に居ると想定します。 ■ あなたが居るフロアは、書架・ロッカーなど備品の固定など、事前の安全対策はしており、あなたや同じ部屋に居た人は無事だったと仮定します。 ■ 無事だったあなたは、会社内の災害対策本部員として活動することとします。 <p style="text-align: right;">2</p>
<p style="text-align: center;">帰宅困難者対策図上訓練 (大阪駅周辺地区)</p> <p>STEP 1 発災後15分～3時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 災害対策本部としてまず第一にすべきことは、次のようなことです。 <ul style="list-style-type: none"> ①状況確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 震災の様相や交通機関の運行など外部情報 ・ 自社内や近傍地域の被害・安全状況 ②施設内に居る従業員や来客等の緊急の一時避難 ■ 今回の訓練に参加いただいた会社では、事業所防災計画等で、決めていると推測します。 ■ その決めている内容について、各テーブルで披露して下さい <p style="text-align: right;">3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①状況の確認 <ul style="list-style-type: none"> ～以下のような情報の確認方法を決めていきますか？確認すると決めていること、また確認すべきと考えているが確認方法に困っていること等をお話下さい。 外部情報 震災状況、交通機関の運行等 社内情報 施設の被災状況、安全性 施設内の従業員の状態 外出中の従業員の状況 従業員等の家族の安否 館内の従業員や来客の状況 テナント事業所の状況 周辺情報 周辺の被災状況 屋外滞留者の状況 他に何か？ ②施設内に居る従業員や来客等の緊急の一時避難 <ul style="list-style-type: none"> ～業種・業態や施設の特性によって違いはあるでしょうが、一時避難はどうするように考えていますか⁴

帰宅困難者対策図上訓練（大阪駅周辺地区）

STEP 2 発災後3時間～6時間以内

- この頃になると災害の全体像（交通機関の状況含む）や自ビル・周辺の状況も判って来ます。
- 一方で、夕方になってきて、徒歩帰宅も困難・危険な状況になります。
- ここで、従業員・来客等を、自施設で滞留させるかどうかの判断が必要になります。
- この判断は、オフィス等の施設滞在者が従業員等の特定の人である業態と、鉄道駅や大規模集客施設等の施設滞留者が不特定の人である業態で、対応が違ってくると思われれます。
- 各社でどのような判断をされるかお話し下さい。⁵

帰宅困難者対策図上訓練（大阪駅周辺地区）

STEP 3-① 発災後6時間後～

- STEP 2での各テーブルでの議論で、屋外滞留者の収容場所が、各エリアで確保できると感じられましたか？
- もし、従業員等の屋内滞留をしない(出来ない)会社が多いと、屋外滞留者は、8万人よりもっと多くなります。
- また、屋外滞留者用の滞留施設が不足すると、屋外滞留者が数百、数千人単位で地区内を移動し、一時滞留施設や鉄道駅での混乱だけでなく、従業員等だけ滞留させるオフィス等も混乱に巻き込まれます。
- その混乱の状況を想像してみましょう。⁷

【ここで、施設の安全性は確認された（物理的には滞留者受入れは可能）との仮定のもとでお話し下さい】

①従業員や用語での来客の屋内滞留

- 帰宅困難者対策のポイントの一つは、屋内に滞留できる場所がある場合には従業員等は事業所内に留め、屋外滞留者にしないことです。
- 従業員等を屋内に滞留させないと判断される場合には、その理由をお話し下さい。

②不特定の利用者・来訪者の屋内滞留

- 屋内滞留を受入れることが可能かどうかをお話し下さい。
- 受入れが無理な場合はその理由、一定の条件での受入れが可能な場合はその条件について、お話し下さい。

ここで、10分間、休憩します。

【あなたの会社に次のような人が来訪したらどう対応しますか？ みんな拒否しますか？出来ますか？】

- 屋内の公共的空間（通路、アトリウム等）への立入り・残留
- 屋外の公共的空間（公開空地等）への立入り・残留
- 施設の一時利用（トイレの利用、ちょっと休憩等）
- 災害弱者（要援護者）や負傷者の救援要求
- 交通情報等の提供要求
- 水など物資提供の要求
- クレーマーの来訪

【「よほど困っている人だけ入れる」というのは無理です。一人入れると、周辺に滞留している数百、数千人の人が、「入れる」と言ってきます】

帰宅困難者対策図上訓練（大阪駅周辺地区）

STEP 3-2 発災後6時間後～

- 以上から、「ウチは、屋外滞留者は受入れられないので、屋外滞留者問題には関係ない」という訳にはいかないと思いませんか？
- 結局、屋外滞留者問題への対応は、あなたの会社の業種・業態、一時滞留スペースの有無等にかかわらず、お互いに出来ることを、地域で協力してやる必要があります。

9

- ① オフィスなど、屋外滞留者をあまり発生させない業態
 - 大前提は、従業員等を屋内に留めて、屋外滞留者を発生させないこと。そのためには、建物の安全性確保が必須。
 - その上で、屋外滞留者を受入れる施設に、どういった協力が可能ですか？（滞留者のケアのための従業員の派遣、物資備蓄や提供への協力等）
 - ② 大規模商業施設など、屋外滞留者の主要な発生源となる業態
 - 自施設内に収容出来ない来客の、滞留場所の確保をどうされますか（他施設の協力が不可欠だと思いますか）？
 - ③ 屋外滞留者が殺到しかねない鉄道駅
 - 屋外滞留者の駅への殺到を避けるため、周辺の立地企業にどういった協力をしてもらいたいですか？
- ※ 一時滞留スペースとの候補となる場所をお持ちの企業にお訊きします。
- 一時滞留スペースとしてその場所を開放する場合には、気になること、留意しないといけないことは、どんなことですか？

11

- ここで、あなたの会社の業種・業態を踏まえて、屋外滞留者問題に対して出来ること、やる上で課題となることなどを、お話し下さい。
- お話いただく際、エリア内、あるいはエリア外で、「一時滞留スペースに出来ないか」と思われる場所を、地図上でお示し下さい。
- また、屋外滞留者対策上で、「これは重要だ」（たとえば情報の共有化・提供等）と思われることがあれば、お話し下さい。

【一時滞留スペース開設上で留意すべきこと。たとえば】

- 施設の安全性
- 施設内の受入れ可能な区域設定、収容人数
- その区域の管理方法、管理のための体制
- 滞留者に守ってもらうルール、入退所等の管理方法
- 滞留者のための物資備蓄と提供
- トラブルが起こった場合の対処方法
- 急病人への対処方法
- 滞留者が求める情報の収集・提供方法
- 他の一時避難スペースとの連携方法（満空状況の連絡等）
- 周辺企業からの支援受け入れ等地域の連携体制
- その他

おわりに 話し合ったことの整理と発表

- グループごとに発表者を決めてください。
- グループ進行役は、本日の話し合いで作成したリスト・地図などを説明し、書き加えることがないかなどの確認をしてください。
- 各グループの発表者からグループで話し合ったことを発表してください。

2-2. アンケート調査票

帰宅困難者対策図上訓練に関するアンケート調査

本日の図上訓練や貴社の帰宅困難者対策についてお答えください。

Q1 本日の講師のレクチャーの感想をお書きください。

1. とてもわかりやすく有意義な情報が得られた 2. 話が難しくついていけなかった
3. すでに知っている情報がほとんどだった 4. その他（ ）

Q2 本日の図上訓練の内容はどうか。

1. 実情に応じた内容でわかりやすかった 2. 実態とかけ離れておりついていけなかった
3. その他（ ）

Q3 本日の図上訓練の進行はどうか。

1. ちょうどよい時間配分だった 2. テンポが速く付いていけなかった
3. 十分な議論ができないまま進行し不満 4. その他（ ）

Q4 自社や自団体でも本日のような図上訓練やってみようと思いませんか。

1. やってみたい 2. 必要性を感じない 3. わからない

Q5 今後自社や自団体でさらに充実が必要と思う取組みの全てに○をつけてください。

1. 社内の防災体制づくり 2. 周辺地域の情報収集
3. 周辺の企業や団体との連携 4. 屋外滞留者等への対応のルールづくり
5. 従業員や顧客等の安全確保や混乱防止 6. 従業員や顧客等のための水・食料等の備蓄
7. 従業員や顧客等のための一時滞留スペースの確保
8. 帰宅困難者の受入れのためのルールづくり
9. 帰宅困難者の受入れのための一時滞留スペースの確保
10. 防災訓練等による日ごろからの備え
11. その他（ ）

Q6 自社や自団体のエリアで今後さらに充実が必要と思う取組みの全てに○をつけてください。

1. 企業や団体間での災害時情報ネットワーク 2. エリア災害対策の事務局づくり
3. エリアの企業や団体による定期的な訓練 4. エリア共同の備蓄や一時滞留スペース確保
5. その他（ ）

Q7 帰宅困難者を受入れる一時滞留スペースを設ける場合の課題の全てに○をつけてください。

1. 予測困難な事故等への免責の明確化 2. 居座り等に対する公的排除の確約
3. 自社不利益への応分の補償 4. その他（ ）

企業名・団体名	部署	氏名

※企業名・団体名、部署、個人名がわかるような分析はしません。

2-3. 記録写真



(名古屋大学 廣井准教授 レクチャー)



(図上訓練 ワークショップ)